

令和5年度 学校評価(7月) 成果と課題

保:保護者アンケート(網掛けは市内共通項目)、児:児童アンケート

学校経営理念	Well-being な学校づくり ～子どもが通いたい学校、保護者・地域が通わせたい学校、教職員が働きたい学校～		
学校教育目標	主体性を育てる ～自主・自律・共生		
目指す子ども像	「させられないで、する子ども」 ◎自分の願いや目標を持ち、自分で考え、判断、行動し、多様な人々と協働しながら、自らの可能性を発揮していく児童の育成		
推進方法	～ 生徒指導の3つの機能・4つの重点目標・12のアクションを通して ～ ◎生徒指導の機能 (1)存在感 (2)自己決定 (3)共感的人間関係		
確かな学力	重点1	■主体的な学び:「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を図る。	
	アクション	①言語活動(読む、書く、話す、聞く)の充実 ②ICT(タブレット)活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ③ユニバーサルデザインの視点(構造化、視覚化、焦点化)を生かしたわかる授業づくり	
		根拠となる指標	データ分析
		<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査(6年生) ・標準学力テスト(2～5年生) ・保1 授業がわかりやすい ・保2 興味を持って学習 ・保3 家庭学習の習慣 ・保4 進んで書く、話し合う ・保5 ICTの効果的活用 ・児1 授業がわかりやすい ・児2 進んで書く、話し合う ・児3 進んで家庭学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査(6年)では、国語、算数の全観点・領域において、全国平均を6～15P上回っている。また、標準学力テスト(2～5年)でも概ね全国平均を上回っている。 ・保「授業がわかりやすい」の肯定的評価は88%で市平均を1P上回っている。「興味を持って学習」は66%で市平均を2P上回っている。「家庭学習の習慣」は、市平均よりも1P上回るものの、昨年度6月より3P下降している。「ICT活用」については、昨年度6月から8P上昇し85%と高水準にある。 ・児「学校の授業はわかりやすい」の肯定的評価が95%、「自分の考えを進んでノートに書いたり、話し合いに参加したりしている」が84%と、どちらも高い水準を示している。一方、「家庭学習」は81%であり、昨年度6月より4P下降している。
		成果(○)と課題(●)	
	<p>○どの学年も知識・技能をはじめ基礎的学力は、ほぼ身に付いている。</p> <p>○児では、「授業がわかりやすい」、「自分で進んで」の肯定的割合が高い水準にあり、概ね、質の高い授業ができています。「生徒指導の機能」や「ユニバーサルデザインの視点」に関する職員研修やセルフチェックシートの活用により、わかる授業づくりが具現化できてきています。</p> <p>○中・高学年においては、各教科で、調べ学習や表現活動などで一人一台端末(タブレット)の効果的活用が進み、ICTを活用した個別最適な学びがより推進できた。2年生においては、アプリを活用し、自分のペースで学習に取り組む体験ができた。今後継続的に活用していきたい。</p> <p>○高学年の教科担任制が定着し、質の高い授業と学びの充実につながっている。</p> <p>●児では、約5%の児童が「授業がわかりやすい」について否定的な評価をしている。今後さらに一人一人の事態に応じた支援の工夫・充実を図っていく必要がある。</p> <p>●主体的な学びに関しては、今後も校内研究において生活科や総合的な学習の時間を中核に、学習プロセスや支援の工夫を図ることで、さらに充実していく。</p> <p>●各教科において、「読む、書く、話す、聞く」の言語活動の工夫を図る。特に、自力解決場面やまとめ・振り返りの場面で、自分の意見や考えを自分の言葉で表現することに重点的に取り組む。</p> <p>●「家庭学習の習慣」について十分定着していない状況があり、工夫を図る必要がある。</p> <p>●タブレットを活用した協働的な学びについては、今後も相互参観や校内研修を重ねながら、より効果的な活用を図っていく必要がある。</p>		

重点2	■認め合う仲間:自己肯定感を持ち、多様性を認め合う児童を育成する。	
アクション	④学級経営の充実(多様性の尊重、自己肯定感の育成) ⑤道徳科を要とした道徳教育の充実 ⑥豊かな体験活動(異年齢交流、地域交流)	
	根拠となる指標	データ分析
<ul style="list-style-type: none"> ・保6 自分からあいさつ ・保7 自分の役割に責任 ・保8 だれとでも優しく関わる ・保9 子どものことで相談 ・保10 いじめや暴力のない取組 ・保11 「あったかはあと」の育成 ・児4 学校は楽しい ・児5 自分にはよいところがある ・児6 誰に対しても優しい ・児7 自分から進んで挨拶 		<ul style="list-style-type: none"> ・保では、「自分の役割に責任」「誰とでも優しく関わる」の肯定的評価は、市平均と同水準であるが、「進んであいさつ」については、昨年度6月から上昇してはいるものの、市平均比較では4P下回っている。学校独自項目「相談に応じてくれる」「いじめや暴力のない学校生活」「あったかはあとの育成」の肯定的評価は、すべて90%以上であり、高い水準を示している。 ・児では、「学校は楽しい」については、肯定的評価が91%に到達しているものの、否定的回答をしている児童が9%いる。自己肯定感については、80%が「自分には良いところがある」と回答しているが、学年間の差が大きい。(最大:1年生90%、最小:6年生66%) ・児では、「進んであいさつ」の肯定的評価は82%であるが、保では72%である。児童の自己評価ほどは、できていない実態が伺え、さらに意識化と実践化を図る必要がある。
成果(○)と課題(●)		
豊かな心	○多様性を尊重し、自己肯定感を育成する学級経営の充実により、学校生活満足度や自己肯定感 は、概ね高水準にある。	
	<p>○道徳授業については、学級経営を基盤に、ローテーション授業を実施したり、授業参観等で積極的に授業公開したりするなど、指導体制や教材研究の充実により、指導の充実・強化が図れた。</p> <p>○人権教室(2年生)において、いじめ防止や多様性の尊重に関わる指導を計画的に実施できた。 【2学期に、人権教室(3年生)、学校支援実践講座(4・5年生)を実施予定】</p> <p>○生活科や総合学習、社会科学習等において、様々な体験活動を実施し、地域や行政の人々との交流ができた。</p> <p>○異年齢交流活動を計画的に実施し、ペア学年でのなかよし交流を推進できた。今後の継続的に取り組み、人と関わる力を育成していく。</p> <p>●児では、「学校は楽しい」について否定的に回答している児童が 9%いる。また自己肯定感については、学年差が大きい。今後、生徒指導の機能を生かした学級経営や異年齢交流をさらに工夫・充実していく必要がある。</p> <p>●児では、「進んであいさつ」の肯定的評価は82%であるが、保護者アンケートでは、72%である。児童の自己評価ほどは、できていない実態が伺え、さらに意識化と実践化を図る必要がある。また、挨拶は個人差が大きいと思われる。各学級や代表委員会などの取り組みを工夫し、意識を高め、「自ら進んで」実践できるようにする必要がある。</p> <p>●地域交流の教育的効果を職員間で共有し、今後、総合的な学習の時間をはじめ、さまざま教育活動で地域資源(物的・人的)の活用をさらに、積極的に推進する。</p> <p>●学校独自3項目「相談」「いじめ・暴力」「あったかはあと」については、例年と変わらず、依然として無回答(=わからない)の割合が9~18%と多く、学校の取組が十分に伝わっていない状況が改善されていない。授業参観だけでなく学校だよりやHPで積極的に情報発信していく必要がある。</p>	

重点3	■健康・安全のセルフマネジメント:健康安全に関するセルフマネジメント力を育成する。	
アクション	⑦自ら運動に親しむ資質・能力の育成と体力向上(教科体育の充実、運動の日常化) ⑧健康安全教育の充実(生活習慣、食育、危険回避能力)	
	根拠となる指標	データ分析
	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト(1～6年生) ・保健室利用状況 ・保12 進んで体を動かす ・保13 安全に気を付けて生活 ・保14 規則的な生活習慣 ・児8 進んで体を動かす ・児9 早寝・早起き 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果(R5)は、全学年ほぼ全ての項目について全国平均を下回っており、その状況が数年続いている。特に、走・跳の運動において、全国平均を5～10P 下回っている。 ・保では、「自ら安全に気を付けて」「基本的な生活習慣」の肯定的評価は昨年度と比較し同水準であり、市平均を1～2P 上回っている。 ・保では、「進んで体を動かす」の肯定的評価が、市平均比較で3P 下回っている。児でも、77%と低く、昨年度比較でも6P 下降しており、依然として運動に親しんでいない状況が伺える。 ・児では、「早寝、早起き」の肯定的評価が、昨年度と比較して16P 上昇している。保との乖離が小さくなり、同様の水準となっている。
成果(○)と課題(●)		
健康 やかな 体	<p>○教科体育では、年間指導計画の見直しを行い、単元のまとめどりをしたことで、単元の運動に集中してじっくりと取り組めるようになり、自分のめあてを持ち、達成感を味わいながら楽しく運動できた。</p> <p>○業間休みや昼休みなど進んで外遊びをしている児童が多い。</p> <p>○給食時間の校内放送で、「今日の給食ワンポイント」を紹介したり、2年生では食材(トウモロコシ)の皮むき体験を行ったりするなど、食に関する意識を高め食育を推進できた。</p> <p>○4年生保護者を対象に給食試食会を実施、家庭への啓発が推進できた。 【2学期に、1年生と3年生保護者を対象に給食試食会を実施予定】</p> <p>○避難訓練を計画的に実施できた。特に、不審者対応訓練を年度の早い時期(6月)に実施したことで児童の危機管理意識を高めることができた。</p> <p>○着衣水泳教室(5・6年生、7月)を実施し、水難事故に対する危機意識と対処技能を高めることができた。</p> <p>●体力向上に課題がある。業間、昼休みには、外遊びする児童の姿も多いが、アンケートでは、保護者、児童ともに、外遊びなど進んで体を動かすについて肯定的評価が低い。引き続き、放課後の遊び方や休日の過ごし方も含めて、運動に対する意識(運動が好き、運動することは楽しい、運動をしたい等)を高めていく必要がある。</p> <p>●基本的な生活習慣(早寝・早起き、朝ごはん)については、昨年度比較で児童の自己評価が大きく向上したが、今後も自らの生活態度を改善できるような手立てを講じていく必要がある。</p>	

信頼される学校づくり	重点4	■寄り添う支援:子どもや保護者の思いに寄り添いながら、保護者・地域との連携を図る。	
	アクション	⑨子ども支援体制の充実・強化(子ども支援部会、ケース会議、児童アンケートなど) ⑩保護者・地域と連携した教育活動の展開(生活科、総合的な学習の時間、学校行事など) ⑪適時適切な情報発信と学校公開(各種お便り、HP、授業参観、懇談会など) ⑫学校運営協議会での教育ビジョンの共有、学校評価による学校経営改善の推進	
		根拠となる指標	データ分析
		・保15 学校経営方針の周知・啓発 ・保16 保護者・地域との連携 ・保17 保護者の思いや願いに対応 ・保18 特色ある取組 ・保19 一人一人に適切な指導支援 ・保20 安全な生活指導	・保では、共通5項目のすべてにおいて、肯定的評価が市平均を2～7P 上回る。特に「特色ある取り組みや教育」については、7P 上回っている。 ・全6項目のうち、すべての項目において、例年と変わらず依然として無回答(=わからない)の割合が10～17%と大変多い。学校の取り組みが保護者に十分に伝わっていない状況が、例年改善されていない。
		成果(○)と課題(●)	
	○職員会議や子ども支援部会、ケース会議などで、支援を要する児童や家庭に係る情報共有と対応について、学校体制を整備しながら、児童や家庭への支援の充実を図った。 ○教職員で不登校児童の状況を共有し支援の充実を図るために、「不登校児童支援記録シート」を作成し、9月から活用を進めている。 ○総合的な学習の時間、生活科、特別活動(学校行事等)において、保護者、地域との交流活動を少しずつ実施できている。 【11月に、保護者・地域の方々の協力のもと、プレスタを実施予定】 ○1学期、学校運営協議会(2回)を開催し、学校経営方針の承認をいただくとともに授業参観を実施した。情報共有や経営課題について検討・協議ができた。 ○はあと学級では、「居住地交流」や「交流および共同学習」を児童・保護者のニーズに応じて適切に実施できた。 ○令和6年度特別支援学級(自閉症・情緒小障がい)設置に向け、入級希望の相談体制を整え、保護者への周知を図ることができた。 ○学校HPをほぼ毎日更新し、児童の学習や生活の様子をお知らせできた。 ●児童のSOSを取りこぼすことがないように、新たに「相談箱」を設置し活用を図る。(10月～) ●令和6年度特別支援学級(自閉症・情緒小障がい)設置に向け、特別支援教育コーディネーターを中心に、子ども支援部会(校内委員会)の機能強化を図る。 ※子ども支援部会=生徒指導+不登校児童支援+校内委員会(特別支援教育) ●例年同様、無回答(=わからない)の割合が10～17%あり、大変多い。学校の取組みが十分に保護者に伝わっていない状況が伺える。HPの充実、学校だより等の内容改善など、情報提供の内容と方法を改善していく必要がある。		